

平成29年12月8日

鹿児島市長 森 博 幸 殿

鹿児島市事業評価監視委員会
委員長 平田 登基男



平成29年度鹿児島市事業評価監視委員会における審議結果について（報告）

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

付議された社会資本総合整備計画「中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり」、「鹿児島市における機能性の高いまちづくり」及び「鹿児島市谷山地区における都市交通の円滑化と市街地の一体化による安全・快適な都市環境づくり」並びに都市再生整備計画「吉野地区都市再生整備計画」の各事後評価原案について、詳細に審議を行った結果、一部表現の文言整理を行うことを条件として付した上で、いずれも妥当であるものと認める。

事業評価監視委員会が出された主な意見

社会資本総合整備計画「中心市街地の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり」

- ・指標2「いづろ・天文館地区の空き店舗率」が目標達成に至っていないのは、市街地外にある大型商業施設の影響だけではなく、高い家賃によって出店が困難であることも原因の一つと考えられるので、効果発現要因の表現をもっと工夫すべき。

社会資本総合整備計画「鹿児島市における機能性の高いまちづくり」

- ・計画目標に「個性と魅力あるまちづくり」を掲げているが、区画整理を行った4地区（宇宿中間、原良、谷山第二、吉野）の個性が同じように見えるので、効果の発現状況について、各地区の「個性と魅力」の内容について、もう少し書き込まれてもいいのではないか。

社会資本総合整備計画「鹿児島市谷山地区における都市交通の円滑化と市街地の一体化による安全・快適な都市環境づくり」

- ・谷山地区は連立交差事業で利用者の満足度が高まったと感じられることから、計画指標の中に居住満足度や利用満足度も入れておけば、良い結果が出たのではないかと。

都市再生整備計画「吉野地区都市再生整備計画」

- ・アンケートについては、社会調査士の有資格者などの専門家に相談した上で作成した方が、より実のある総合考察ができ、実質的な住民参加に近づくのではないかと。

その他

- ・事前に資料が配布されているとはいえ、短時間で評価の妥当性を判断するのは困難。どのような意図で評価原案がまとめられているのかがわかる資料も事前に示していただくことで、もっと理解を深めることができると思う。